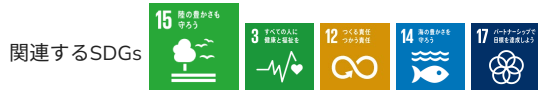


生物多様性



YKK APの事業活動は豊かな地球の恵みに大きく依存しており、生物多様性の保全は、持続可能な社会を実現するために必要不可欠だと考えています。事業活動による生態系への影響を最小限に抑えるとともに、地域社会と連携して自然環境の保護に取り組みます。

社会的背景／YKK APの目指す姿

社会的背景

2022年の生物多様性条約（CBD）COP15において採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」にて、2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復に転じさせるネイチャーポジティブ（自然再興）が掲げられました。この国際目標の実現のため、健全な生態系を確保し、生態系による恵みを維持回復するとともに、自然資本を守り活かす社会経済活動（自然や生態系への配慮や評価が組み込まれ、ネイチャーポジティブの駆動力となる取り組み）の推進が加速しています。企業においては、事業活動において生物多様性への負荷を低減していくことが求められており、ネイチャーポジティブの考え方は、全世界共通のミッションとなっています。

YKK APの目指す姿

生物多様性の損失は、気候変動や土地利用の変化、汚染など、さまざまな要因が複合的に影響しているため、包括的な対策が必要です。

ライフサイクル全体で現在および将来世代の豊かな生活の実現と地球環境に貢献していくため、ネイチャーポジティブの考え方を取り入れ、その実現に向けた取り組みを積極的に進めていきます。

環境長期ビジョン

YKK APは、事業活動のすべてにおいて自然環境から恩恵を受け、また自然環境に影響を与えていることを認識し、環境や生物多様性の保全を重要課題として捉えています。事業活動による生態系への影響を最小限に抑えるとともに、地域社会と連携して自然環境の保護に取り組み、自然・地域との共生を目指します。

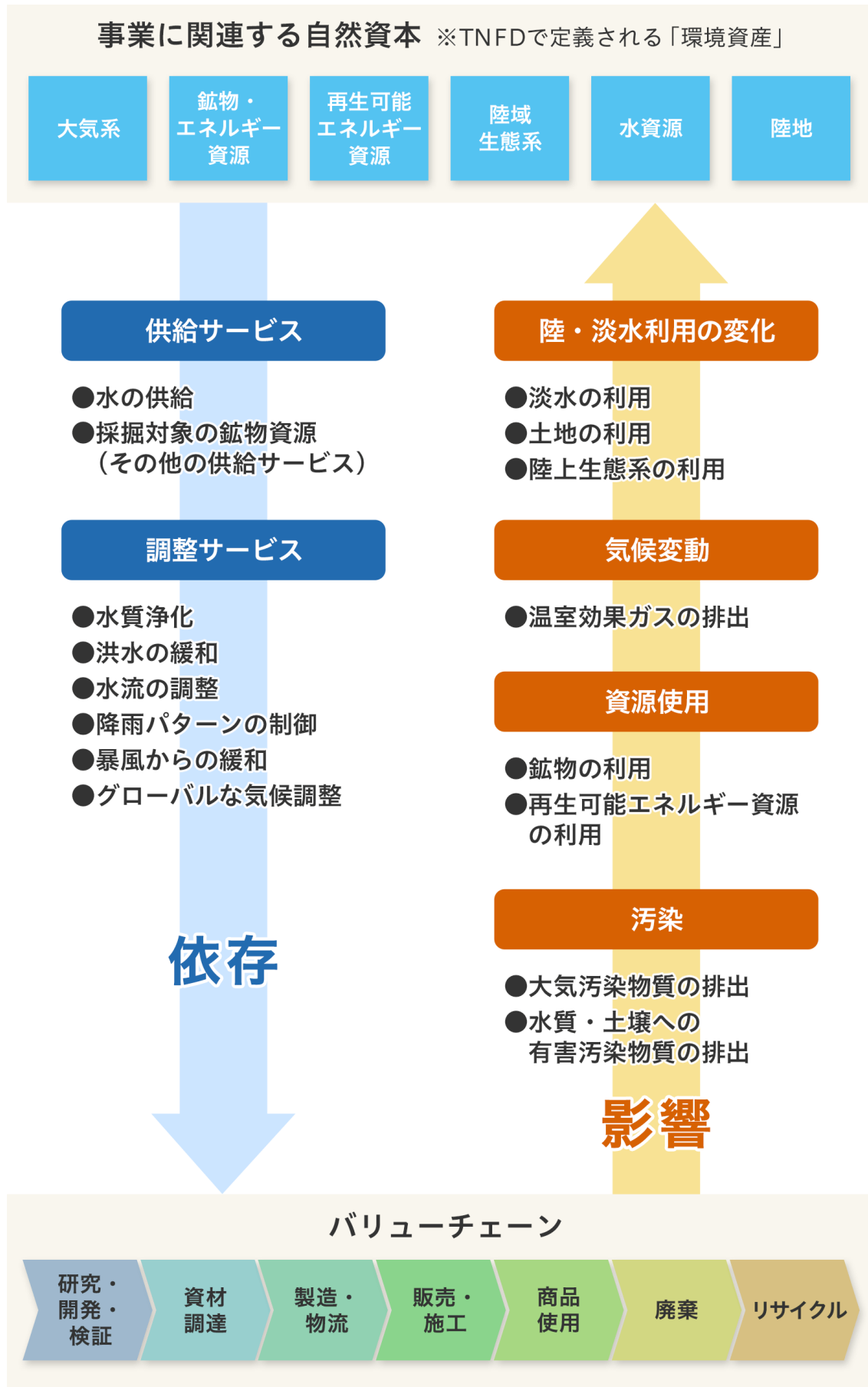
さらにこうした取り組みについて、今後は、自然資本や生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価・開示するための枠組みであるTNFD^{※1}フレームワークを参考にしながら、積極的な情報開示に努めていきます。

※1 自然関連財務情報開示タスクフォース（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）

YKK APにおけるリスクと機会

	短期	長期
リスク	- 工場周辺の開発 - 製品への鉱物資源等の利用 - 工場からの有害物質の排出等による周辺生態系の影響	- 緑地の減少、資源の枯渇、自然環境の破壊などによる周辺環境や生態系への影響 - 化学物質摂取による健康被害
機会	環境配慮型商品の開発、販売、拡販	サプライチェーンを含む生物多様性活動の推進による地球環境負荷低減、事業活動の継続

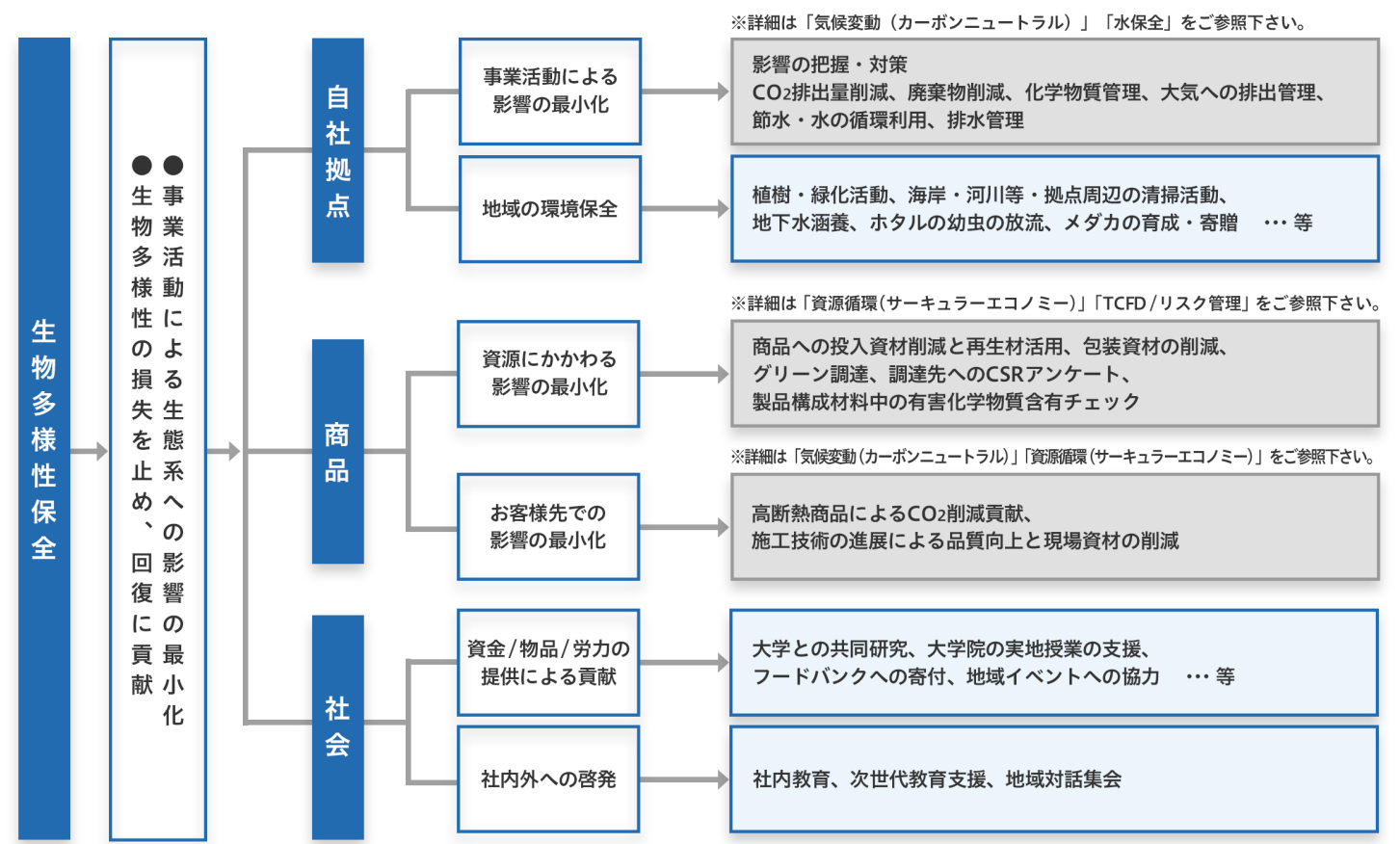
事業と自然資本との依存・影響関係



2025年度の総括と今後の展開

2025年度は、自社拠点や商品における影響の最小化に努めるとともに、国内・海外の各拠点や部門において、地域の環境保全や社会貢献活動、次世代教育支援などに取り組み、合計234件の社会貢献活動を実施しました。今後も自然・地域との共生に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

生物多様性に関するYKK APの主な取り組み



テーマ	2025年度計画	2025年度実績	2026年度計画
社会貢献件数	220件	234件	235件

■ 次世代教育支援

富山大学と共同研究講座を設置 アルミリサイクル技術の確立をめざす

YKK APは富山大学と協力し、2025年6月に「アルミ再生・循環システム工学（YKK AP）共同研究講座」を設置しました。アルミニウム分野で高度な技術や学術的知見を持つ富山大学とともに、回収されるスクラップに含まれる不純物の分離プロセスの効率化や、不純物を含む材料の特性改善、用途開発などの課題について2年4カ月間にわたり研究します。

今回の研究体制においては、研究者などが大学や企業の間で、それぞれと雇用契約を結び、研究開発や教育に従事する「クロスアポイントメント制度」を活用。YKK APの社員1名が富山大学の教員として派遣され、活動しています。大学の先進的な知見と自社設備を融合させることで、持続可能なアルミリサイクル社会の実現に向けた技術開発を加速します。



台湾主要大学と産学連携 建築の専門人材育成に向け意見交換

YKK AP台湾社は2026年3月、台湾の建築・設計をリードする主要9大学の教授らを招き、次世代人材育成に向けた意見交換会を開催しました。持続可能な成長と技術の継承を見据え、即戦力となるキャリア採用だけでなく、新卒人材を専門スペシャリストとして育成するYKK AP台湾社の方針に基づき実現したものです。

意見交換会では、インターンシップを通じた実務教育の重要性や、自社社員が講師を務める建材知識の特別講義の開設、大学の卒業制作展における「YKK AP特別賞」の創設など、教育の質と学習意欲の向上につながる具体的なアイデアが議論されました。これを受けて、2026年5月には提携大学である国立台北科技大学を含む3大学の卒業制作展に協賛。今後も教育機関と連携し、自社のスペシャリスト育成を通じて、台湾の建築業界全体の発展に貢献していきます。



■地域貢献

YKKセンターパーク「ふるさとの森」で地域とともに記念植樹

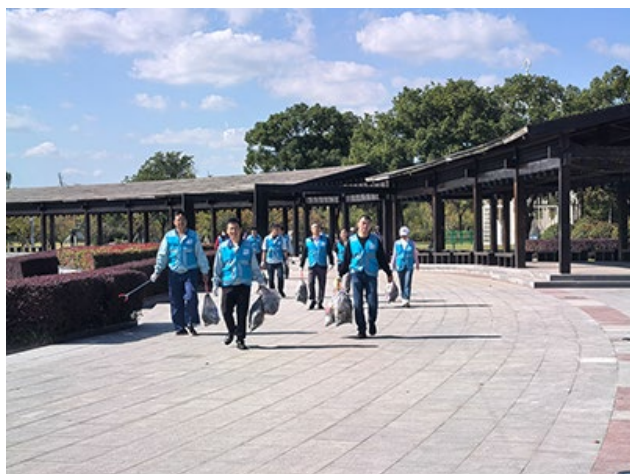
2025年4月、YKK黒部事業所内で地域に開放されている「YKKセンターパーク」の「ふるさとの森」で、エリア拡充を記念した植樹が行われました。「ふるさとの森」は、吉田忠雄YKK創業社長が理想とした「森の中の工場」の実現に向けて、2008年から植樹を開始。2024年にYKK AP30ビル、YKK AP技術館が完成したことに伴い、エリアを拡充しました。

植樹の当日は地域住民や地元の小学生のほか、YKK AP 魚津社長ら約170名が参加。クリやコナラなど1,000本の苗木が植えられました。2026年度までに3万本以上の植樹が計画されており、地域の未来を育む豊かな森づくりを継続していきます。



中国グループの各社で環境保護に向けた清掃活動を実施

YKK AP中国グループの各社では、海洋ごみ削減や水域の生態環境保護をめざした清掃活動に注力しています。YKK AP蘇州社では、2025年10月に社員136名が参加して社内外で計8回の清掃活動を実施。会社敷地内の河川敷や芝生エリアに加え、周辺の景勝地である陽澄湖の遊歩道沿いで協力して清掃活動を行い、回収したごみは計71袋にのぼりました。また、YKK AP大連社では、2025年7月に社員や社員の家族あわせて120名が海浜清掃活動に参加。市民の憩いの場や観光スポットとなっている小窯湾海岸でペットボトルや漁網の破片など約120kgの海洋ごみを回収しました。中国グループ各社では、今後も社員一人ひとりが高い意識を持ち、地域の環境保全に向けた取り組みを推進していきます。



■社会貢献活動一覧

さらに詳細な情報

次世代教育支援（国内）（2026年 6月現在）

対象者	活動名称	活動内容	実施拠点	2025年度実績
小学生	おしえて!!メダカ先生プロジェクト	理科の教材として、製造所内で育成したメダカを寄贈	九州製造所	4校（計200匹）
			四国製造所	—
			東北製造所	7校（計450匹）
	グリーンカーテン応援プロジェクト	小学校の窓際に、子どもたちと一緒にグリーンカーテンを設置	九州製造所	—
	「窓」から考えるエコハウスづくり	地元の小学校へ出張授業 エコハウスの模型を作り、風の流れ方や窓の断熱性、植栽の遮熱効果等を学習（親子で参加のワークショップ）	九州製造所	—
			黒部製造所	2回開催 合計30組37名の親子が参加
			東北製造所	12組30名の親子が参加
			四国製造所	—
	ろ過器作り体験	手作りろ過装置をつくり、泥水をきれいにする実験を行う環境ワークショップを開催	四国製造所	32名
高校生	サステナブル・ブランド国際会議2025「学生招待プログラム」への協賛	SDGsをテーマに高校生と企業が交流・議論するイベントの協賛企業として、「窓」の重要性の講演を通じて、窓メーカーの視点からカーボンニュートラルを説明	サステナビリティ推進部	参加者 生徒：755名、 先生：159名
産学連携	東北大学との共同研究	次世代型アルミニウム資源循環をめざし、2024年4月、東北大学との共同研究講座を開設	YKK AP	継続して研究を推進
	「富山県資源循環社会モデルの創生」に賛同	富山大学との「アルミ再生・循環システム工学（YKK AP）共同研究講座」の設置		6月に開設
	ハーバード大学デザイン大学院の支援と交流	ハーバード大学デザイン大学院の実地授業「デザインスタジオ」への支援として、富山県黒部市での実地授業を2024・2025年度の2年度にわたって実施（2026年度も継続することが決定）		継続して実地授業を支援
子ども	芋堀り体験教室	近隣の保育園児を社有地内の芋畑に招き、芋堀り体験を実施	九州製造所	291名
		社員とその家族を対象に、製造所内で栽培したサツマイモの収穫体験を実施	東北製造所	117名が参加
	無料社会体験アプリ「ごっこランド」への出店	子ども向け社会体験アプリ「ごっこランド」に、“窓”に関連する知育ゲーム「YKK APのおうちかいてきだいさくせん！」を出店	広報室	2021年10月から出店
	「うんこ おうちの安全ドリル まどとドア編」冊子・オンラインゲームの公開	子どもに人気の学習書「うんこドリル」とコラボレーションし、「うんこ おうちの安全ドリル まどとドア編」を制作・公開、冊子を全国の小学校へ寄贈	商品開発本部	国内446校の小学校に 39,940冊を寄贈

地域貢献（国内）（2026年 6月現在）

対象者	活動名称	活動内容	実施拠点	2025年度実績
地域住民	花の苗、メダカの無料配布	県下一斉清掃活動「くまもと・みんなの川と海づくりデー」清掃活動参加市民へ苗、メダカ配布	九州製造所	－（中止）
	花の苗の寄贈	協力会社の福祉施設への花の苗木贈呈（春・秋）	四国製造所	7ヵ所（合計1,500鉢）
		宇多津町 秋の大収穫祭での花の苗贈呈		2000鉢配布
		宇多津臨海公園 花の苗植栽（春・秋）		合計34名
	「さぬきの杜（もり）づくり」	製造所内の「さぬきの杜（もり）」に生物公園を設け、工場排水を循環利用した小川や池の造成、緑地整備などを実施		桜並木緑地整備
	メダカ・朝顔苗等の配布	オータムフェスティバル（秋の組合行事）で環境ブースを出展	東北製造所	350名参加 メダカ、朝顔苗、ブドウ苗、藤の苗配布
	クリスマスオーナメント材料提供	近隣の保育園にクリスマスツリーオーナメント用の松ぼっくり（製造所内で採取）を贈呈		11名
従業員	フードドライブ活動	従業員から集めた生活用品や食料品、会社の災害備蓄品（保存水・乾パン）などを必要とする方々へお渡しする活動を実施	国内21拠点	約6,000品
	メダカ配布	製造所内で育成したメダカを従業員に配布	東北製造所	168匹
	サン・サン活動（種の配布）	製造所内で採取したひまわりの種を従業員に配布		約200袋（200人）
地域イベントへの参加・協力	環境保全活動	熊本県主催 環境保全活動参加協力「地下水保全活動」	九州製造所	地下水 約10,000m ³ 涵養に貢献（2024年度実績に基づく参考値）
		熊本県主催 環境保全活動参加協力「江津湖清掃活動」		5名
	館山公園 桜ボランティア活動	館山公園の桜の植樹活動に協力	東北製造所	－
	久喜市環境推進協議会への参画	市と民間団体等が協働して環境保全と創造に向けた活動を推進、事例発表・意見交換等も行っている	埼玉窓工場	1回につき 1名参加
	埼玉県 温室効果ガス削減に関する説明会への参加	「第3削減計画期間の目標達成に関する説明会」への参加		－
	工業団地交通安全運動への参加	交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けることで、交通事故防止の徹底を図ることを目的とした交通安全運動への参加	栃木工場	6月・9月
	酒匂川水系協議会への参画	小田原市内化学系工場の環境取組見学	神奈川工場	2名
		酒匂川水系協議会会議出席		1名
	滑川市環境フェアへの参加協力	1ブースを使用し、環境への取組みをアピール パネル展示、商品サンプル、配布物等	滑川製造所	商品、カタログ展示 スタッフ参加
	とやま環境フェアへの参加協力	富山県が主催する環境イベント「とやま環境フェア」に出展 環境への取り組みや商品を展示	北陸支社	説明員として2名が参加

	EARTH HOUR2026	世界中で同じ日・同じ時刻に消灯することで、地球温暖化防止と生物多様性保全への意思を示すアクションであり、190以上の国と地域が参加する世界最大級のイベント	国内11拠点 海外7拠点	左記拠点参加のほか、 個人参加が1,771名
	TABLE FOR TWOへの参加	社員食堂で対象となるTFTヘルシーメニューを購入すると、代金の内開発途上国の給食1食分の金額にあたる20円が寄付となり、飢えに苦しむ子どもに給食1食分をプレゼントできるイベント	国内12拠点	17,853食分を寄付
	宇多津秋の例大祭参加	宇多津町の宇夫階神社例大祭の神輿担ぎ手で参加	四国製造所	33名
	瀬戸内国際芸術祭の受付ボランティア活動	瀬戸内国際芸術祭の受付作業に協力		2名
	宇多津菜の花プロジェクト	宇多津町のイベントで飾り付け用の菜の花を製造所内で育てて提供		2名
	生き物湯りフェスタ	ごみ問題や河川・海洋環境の保全の周知と来の球磨川・八代海を守り、次の世代に引き継ぐ人材の育成を目的に開催されたイベントに参加。メダカの配布やヤギとの触れ合い、断熱窓の説明などを実施。	九州製造所 ・九州支社	5名
近隣地域	地域清掃活動	工場周辺の定期的な清掃活動 （六甲アイランド地域振興会清掃活動）	六甲窓工場	7名
		「宇多津町クリーン作戦」に参加し宇多津臨海公園周辺と周辺歩道を清掃	四国製造所	44名
		番の州道路（工場前通動路）の清掃活動を実施		39名
		沙弥島清掃ボランティア（2回）		計13名
		宇多津町大東川クリーン作戦		3名
		瀬戸内国際芸術祭 春会期終了後の清掃活動		2名
		八代城跡石垣清掃ボランティア	九州製造所	－
		石狩湾新港クリーン作戦（春・秋）	北海道工場	計95名
		工場周辺道路、側溝の定期的な清掃活動（アダプトプログラム）	山梨工場	28名
		酒匂川水系保全協議会主催「クリーンさかわ」で、酒匂川の清掃活動	神奈川工場	15名
		クリーン作戦		9名
		クリーン作戦	富山婦中工場	延べ27名
		保々工業団地運動公園外周緑地整備（清掃活動）	三重工場	20名
		千代田区主催の「千代田区一斉清掃の日」に参加し、事業所周辺の清掃活動を実施	YKK80ビル	年1回実施 1名
		甲佐町 緑川清掃活動	九州製造所	33名
		鶴ヶ浜海水浴場清掃活動		3名
		やぎ出張貸出 ふれあい除草応援		1件

		緑川河川敷清掃活動	熊本甲佐工場	約50名
		農業用水路清掃		6名
		工場前道路草刈り		6名
		工場側道（農道）草刈り		6名
		中城湾港地区クリーン活動（草刈り・ゴミ拾い）	沖縄工場	8名
自主清掃活動		「エコ・ファースト推進協議会」の活動の一環として、5月～6月にかけて「春の海ごみゼロウィーク」に賛同した清掃活動を実施	国内11拠点	518名
		9/24～10/24に社内で開催した「YKK AP SDGs月間」にあわせて、「秋の海ごみゼロウィーク」に賛同した清掃活動を実施	国内44拠点 海外11拠点	3,799名
		工場周辺の清掃活動	東北製造所	45名（26袋回収）
			埼玉窓工場	延べ約100名
			沖縄工場	38名
敷地内緑地整備		花壇の整備（緑化活動）	岡山工場	延べ13名
		樹木撤去・植樹・チップ敷設	沖縄工場	—
環境保全活動		工場排水放流先の河川（吉田川）に棲息する水生生物調査	黒部製造所 黒部越湖製造所	計4ポイントの調査を実施 YKK APより2名参加
		特定外来生物『オオキンケイギク』駆除	黒部荻生製造所	繁殖範囲について 2020年度比で 約45%減少

地域貢献（海外）（2026年 6月現在）

対象者	活動名称	活動内容	実施拠点	2025年度実績
近隣地域	社会福祉	バンク・サンパ・パートナーシップの運営支援 （家庭ごみ収集・取引ユニットグループ）	YKK AP インドネシ ア社	2ユニットグループを セットアップ
		洪水被害地域への生活必需品の寄贈 （タンゲラン地区災害緊急対応フォーラムとの協力）		主食（米、水、小麦ビ スケット）の配布
	植樹・緑化活動	パトラ マンガラ保護区 マングローブ保全（11年目）	YKK AP インドネシ ア社	5,000本
		植樹活動	エリーAP社	22名参加、11本植樹
			YKK AP 大連社	25名参加、2本植樹
		工場の植樹活動	YKK AP 蘇州社	40名参加、6本植樹
	清掃活動・美化活動	ダブリン リバース・アライブ・クリーンアップ - ジョージアの水資源を美しくするためのボランティア活 動	YKK AP アメリカ社	20名
		清掃活動		15名
		高速道路清掃活動 - 道路脇のゴミを減らし高速道路を美しく保つための州全 体の取り組み		10名
		海浜清掃活動	YKK AP 大連社	69名
		清掃活動		6月・9月実施 合計162名
		“ゼロ”海洋ごみ活動	YKK AP 蘇州社	4月・10月実施 合計40名
		会社周辺でのゴミ拾い活動		年7回実施
		唯亭学校の生徒を招待して東沙湖エコ基地を見学、ゴミ拾 いを実施		50名
		工場周辺のコミュニティ清掃と美化	YKK AP 台湾社	70名
		ゴミ拾い活動	ボルーカ社	48名、8袋